

連載 私の町はどんな町③

さいたま市(大宮宿)

旧大宮市に入るあたりに、「六国見」という地名があります。この辺りは芒洋とした草原で、相模、信濃、甲斐、武蔵、下野、上野の六ヶ国の高峰が迎望できたことで、その地名がついたとのこと。

しかし今は関東地区を統括する諸官庁が移転してきて、「さいたま新都心」として開発され、その高層ビルの真下を中山道が大宮宿へと走っています。

その高層ビル街の中山道を隔てた東側が昔の「高台橋刑場跡」で、三百年前には怨念と涙が漂っていた一帯です。

初期の中山道は、すぐ先の水川神社参道入口を右折し、直線二キロの参道を進み本殿前の新池の近くを通っていましたが、神域を自由に闊歩するのは恐れ多いとの理由から一の鳥居から北上する新道を造り、参道沿いの家屋を移し大宮宿を造りました。

大宮水川神社は二千有余年

今シリーズは皆さんの住む町の歴史を取り上げる新シリーズです。中山道を北へたどりませう。

前の創建で、足利・北条・徳川諸將の保護の下、明治四年に官幣大社となり、戦後民間の宗教法人となりました。

神社裏に「土手の閻魔堂」があり、この閻魔堂にまつわる面白い逸話が多く残っています。

大宮地区では非訪れてほしいのは、大成町一丁目の『大成山普門院』です。井伏鱒二の小説のモデル「普門院さん」と阿部道山老師は、この住職です。

開祖は室町時代、地頭金子駿河守大成が仏門に入り、居館を普門院と呼んで禅庵としました。江戸時代に家康が姉川の合戦で武功のあつた旗本小栗忠政にこの地を与え領主となり、その子孫が開国日本の新体制を築いた幕末の英傑「小栗上野介忠順」です。

ご存じの通り小栗忠順は、全てに弱腰だった徳川幕末期に外国奉行、軍艦奉行、勘定奉行を歴任し、近代国家大

構想を唱えたが、恭順派の勝海舟らに押しきられ、明治元年全ての職を免ぜられた忠順は、失意のうちに江戸から上州へ移る途中大成村の普門院に立ち寄り、祖先の墓参りをし住職に五十両を預け後事を託しました。忠順が最後の勘定奉行だったので徳川の財宝を持ち逃げしたのではないかと普門院の住職が拷問にかけられ殺されたといわれています。

忠順は群馬県権田村で捕らえられ、翌日何の吟味もなく斬刑に処せられました。烏川畔に晒されていた忠順の首を忠僕の藤七が盗み出し、首級を抱えて中山道をひた走り大成村の普門院に内密裡に葬ってもらおうべく、小栗家一族の

墓の隣に墓でなく「首塚」を建てました。後年、小栗忠順の功績が認められ普門院境内に「招魂碑」が建てられ、海軍省から寄贈された大砲・魚雷・軍艦の錨等が陳列されています。大きな自然石を重ねた忠順の「首塚」は、その正面の大砲や魚雷を見て如何なる感慨を抱いているのでしょうか。

しかしその後、明治四十五年日本海会戦に勝利を収めた東郷平八郎は、忠順の娘婿の小栗貞雄と孫の又一を招き「バルチック艦隊を撃破できたのは、忠順公が横須賀造船所を造ってくれたお陰だ」と礼を述べたとのこと。

大宮地区は、県下随一の交通の要所であり、さいたま新都心を抱え経済・文化の中心として益々発展して行くでしょう。近々オープンする「交通博物館」も楽しみです。さいたま市は四市合併ですが、浦和、大宮、岩槻はそれぞれ独自の文化を守り続けてもらいたいものです。



小栗忠順の首塚(普門院)

武蔵浦和 小島次郎

早目の点検と改修で漏水を防ぎ、建物の資産価値維持・保全をサポートします

「非破壊」劣化度診断システム

防水シート「ロンブルーフ」の防水層に損傷を与えずに劣化度を診断

ロンマットME・ロンステップME

滑りにくい長尺塩ビシート・階段用床材+塗膜防水で安全と防水性を確保

ロンシール工業株式会社

http://www.lonseal.co.jp/

●本社防水部 〒130-8570 東京都墨田区緑4-15-3 TEL.03-5600-1866 FAX.03-5600-1846
●大阪支店 〒532-0011 大阪市淀川区西中島3-9-13 大北ビル7F TEL.06-6304-2700 FAX.06-6304-6948